



# 古川ひろのりの 市政報告

フル  
タイムズ  
2025 春  
号外

2025年1月以降  
発行元/大阪維新の会  
連絡先/日本維新の会衆議院  
大阪府代8選挙区支部  
Tel.06-6848-4400

行財政改革を推し進めるには、議員が先ず「身を切る改革」を実行し、議会改革に取り組む覚悟が必要です。「身を切る改革」の一部として、大阪維新の会池田市議団全員は、現在議員報酬から月額報酬手取り2割相当額を池田市外へ寄付しております(寄付先は災害被災地や福祉施設など。市内への寄付は公職選挙法上認められていません)。

## 古川ひろのり略歴



古川ひろのり公式サイトを  
ぜひご覧ください!

- 1954年 池田市生まれ、北豊島小、北豊島中(19期生)、池田高校(24期生)
- 1972年 早稲田大学商学部(早稲田大学国際部交換留学生として1年間米国留学)
- 1977年 三井物産入社、同社エネルギー・情報産業本部(米国勤務10年間)
- 2000年 株式会社ホリプロ取締役経営企画室長
- 2005年 TOEIC935点
- 現在 池田市議会議員(大阪維新の会 池田)、文教病院委員会副委員長、まちづくり防災特別委員会委員、一般社団法人彩志義塾(ダイバーシティ、女性活躍推進の「立志塾」)運営、石橋読書会会長、自称ウオンバット応援団長、ビジネス書著者(34冊)

フェイスブック  
石橋読書会参照!



古川 ひろのり

## 私の池田市への想い~ その①

### 「古川の疑問」???

一昨年69歳で議員となり、初めて知った言葉があります。「全会一致」です。全国の多くの地方議会も議会改革を進めようとしています。まずは自らの議会を改革しないと、行政(役所)改革を強く求めることができないからです。先ずは、己の襟を正して、自分の周りを改革せよということでしょうか。

例えば、人口が減っているのに議員数は変わらないことなどは、どこの市民から見ても首を傾げられても不思議ではありません。これは議会改革の本格的な例ですが、このような大きな課題以外に、小さな改革・改善点がたくさんあります。

本年から、池田市議会の本会議が、これまでの録画ではなく、リアルタイムで配信されるようになりました。議会の見える化であり、議会改革の一例です。

しかし、議員定数削減、議員報酬低減は全会一致という壁があり、実現していません。

本論に入る前に、基本的なことですが、議会の大きな役割は次のとおりです。

1. ルールを決める: 地域に必要な条例を決める
2. 税金の使い道を決める: 予算を話し合い、承認する
3. 行政をチェックする: 役所の仕事を監視する

これらを通して、議会は市民の代表として「みんなの暮らしを守り、良くするため」に活動しています。

ここから、私のモヤモヤです。今の池田市の制度では、議会の改革を進めるのに「全会一致」でないと進まないという点です。「なぜですか」「なぜ多数決ではないのですか」と周りに聞くと「過去からそうであった」と返ってきます。

さらに、「申し合わせ」という言葉があって、過去何年も遡って党派同士が合意したことが当然のルールとして脈々と続いています。その「申し合わせ」で、議会改革を行うには「全会一致」でないといけないそうです。それが過去からのルールであると。

そして、私の想いはこれです。

1. 改革には意見のぶつかり合いが避けて通れない。過去の改革や革命には常に対立構造があった。フランス革命、ロシア革命、日本の討幕派と旧幕府などの歴史を見ても、どの改革や革命の際にも、対立する意見があった。「全会一致」が過度に重視されると議論が空回りし、意思決定が遅れるという大きなリスクがある。
2. よって議会改革はできるだけ迅速かつ生産的に進めるべきであり、全会一致ではなく多数決で進めるのがいいと思う。もしくは、大変重要な案件は、3分の2もしくは4分の3以上の合意が必要であると取り決めて、前進させる必要があると思う。
3. 多数決などで進めるが、少数意見も尊重するためにも、その過程や異論も公開することで透明性を高める。議事録を残すことや公開討論議会も含めて市民に議会での議論や投票結果を積極的に公開し、多様な意見を尊重していることを示すべきであると思う。
4. 意見の対立は避けるべきものではなく、むしろ必要なプロセスと捉えることができる。対立は多様な意見や価値観を表面化させ、改革の方向性を明確にする役割を果たすと思料。幕末の日本を見ても、単なる対立構造があったのではなく、対立が改革のエネルギーになり、「これからどんな日本にしていくのか」という積極的提案が多く出され、採用されてきた。



「51歳からのルール」  
「60歳からのルール」  
(古川裕倫、明日香出版)

## 私の池田市への想い~ その②

### 「議員になったのはなぜ?」

「なぜ70歳近くになって議員になったのですかと聞かれたことが何度かありました。

長い話を短く言いますと、2018年秋に当時の倉田薫池田市長と面談、「お金はいらないから池田市に役立つ仕事がいただきたい」とお願いしました。そして、「池田市アドバイザー(広報・活性化担当)」というお仕事を頂戴しました。

ところが、2019年に新市長となった富田ひろき氏に(なぜか)クビを言い渡され非常に驚きました。その次の瀧澤市長からお話があり、2023年春の統一地方選挙に立候補することを決めました。

そもそも「池田市に役立つ仕事が欲しい」と言い出したのは、池田市にUターンしてお世話になった故郷に少しでもお役に立ちたいと思ったからです。

私は、池田市生まれで幼稚園(文化幼稚園)・小学校(北豊島小学校)・中学校(北豊島中学校)・池田高校とずっと池田で生活していました。ここには書きませんが、それぞれに素晴らしい思い出があります。大学からは東京に行き、

就職も東京の商社でした。東京勤務と海外勤務(ロサンゼルス、ニューヨーク)。その後1度転職して、それから上場会社の社外取締役や自分でやりたいこともしてきました。やりたいことは、「世田谷ビジネス塾」「石橋読書会」(無料読書会)や「女性管理職を育成するための立志塾(一般社団法人彩志義塾)」などの設立・運営です。



「女性管理職を育成するための立志塾」(一般社団法人彩志義塾が運営)

# 「池田市のSWOT分析!」をやってみました

企業が中長期戦略などを作る際にまず行うのは、「SWOT分析」です。自社の強み・弱み・可能性・脅威をリストして、総合的に考える。この分析は企業単位のみならず、部署の戦略構築などにも使えます。もちろん、個人のSWOT分析を行なって、自分の将来像も描くこともできます。「彼を知り、己を知れば百戦危うからず」と孫子の言葉にもある通りです。ということで、信頼する仲間と共にSWOT分析を行ってみました。

## S Strength:強み

- 五月山・春のさくら・秋の紅葉、猪名川などの自然
- 江戸時代から酒造り、歴史的人物(小林一三、安藤百福)
- 上品な阪急沿線(小林一三のまちづくり)
- ガンガラ祭り、大文字焼き、落語の街などイベントが多い
- 教育レベルが高い。インターナショナルスクールもある
- カップヌードルミュージアム、植木のまち、池田炭などの産業



## W Weakness:弱み

- 池田市の面積が狭い
- 大阪国際空港があるが、実際は国内線のみ
- 池田の街の他市向け発信力が弱い
- 市内観光の交通機関が脆弱
- 池田石橋の古い商店街の安全性

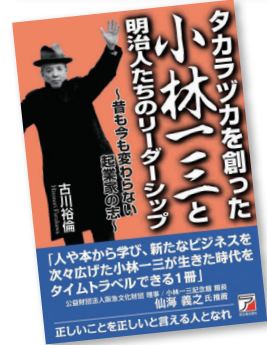


## O Opportunity:機会

- カップヌードルミュージアムには年間90万人が来場。うち3割から5割がインバウンド顧客とも言われる。しかし、駅前にホテルを建設したり、民泊も開始したりすれば、池田市に回遊客が増え、商店街にお金も落ちる。
- 企業誘致。面積が狭いので大規模工場などは難しいが、IT分野であれば、誘致も可能。「ことはじめの街」をうたうが、起業カンパニーが社員が増え、市税も払えるようになるのは時間がかかる。
- ウォンバット。姉妹都市ローンセストンのおかげであり、可愛い珍獣を引き続き市内外に発信すべき。
- 市街調整区域の検証

## T Threat:驚異

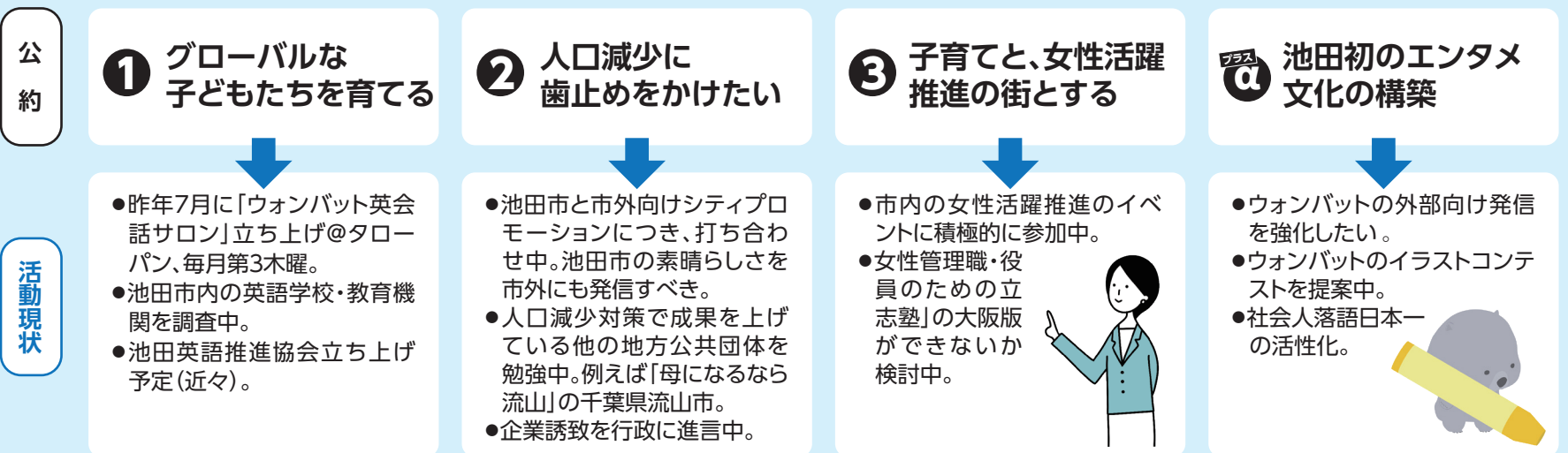
- 人口減少問題
- 財政問題
- 公共施設の老朽化
- 自然災害への備え(地震、河川氾濫、山崩れのリスク)
- 道路が狭く消化活動が困難



「タカラトッポを作った小林一三と明治たちのリーダーシップ」(古川裕倫、明日香出版)  
 ●これは、私の最近の著書です。小林一三さんを尊敬しています。

# 「何ができるか」公約と現状

◆私は《3つ+aの公約》を掲げています。公約とその進展状況の概略を下記します。



# 「これから何がしたいのか」

◆古川裕倫の想いを以下の通りリストします。

## ①人口減少対策

▶池田市は自然や安全な環境に恵まれ、また誇るべき長い歴史があり、小林一三や安藤百福など有名人もおり、池田を市外に広くアピールしていく必要がある。池田市にも人口減少問題は現実問題となり、その対策も必要(昨年度までの第6次総合計画では105,000人を想定、今年からの第7次総合計画では100,000人を想定)。

## ②インバウンドビジネスの強化

▶年間90万人と言われるカップヌードルミュージアムへの来訪者の多くは、ピンポイント訪問をされる方が多く、池田市で食事をしていただくとか五月山動物園などにも回遊いただく工夫が必要。駅前にホテルがないので、民泊を推進すべき。

## ③池田市の財政対策

▶今財政が厳しいからこそ、中長期計画が必要。大阪市には令和14年度までの財政収支計画を発表しているが、池田市は令和9年までしかない。第7次総合

計画は定性計画のみで定量計画がない。やりたいことと懐具合が一致している必要があり、長期定量計画が必要ではないか。

▶財政が苦しいなら行政の生産性を上げる必要がある。生産性が低い部分があれば、過去の慣習や経験から決別すべきではないか。

▶財政厳しい中、企業誘致が必要。池田市は起業家育成を大切としているが、それには100%合意ではあるが、起業家のビジネスの社員が増え、市税が支払えるようになるには時間がかかる。既存企業の誘致も注力願いたい。

▶財政が苦しいからこそ、ムリムダムラを排除すべく、事業見直しが必要ではないか。部署ごとの見直しの他に、総合的に生産性を判断する部署の2元化が必要ではないか。

▶歳入を増やすべき。ふるさと納税もそうだが、歳入アップを考えるべき。公共性の高い事業はそれなりの対応が必要であるが、受益者負担であるべきものは受益者負担とすべき。他市でも行われている歳入アップ施策も参考にすべき。



「教え方の教科書」(古川裕倫、すばる舎)